

No.210からつづく

#### 4) モスクワ騒乱事件で大統領権限強化

エリツィンは、ルツコイ副大統領、ハズブラートフ最高会議議長ら議会と対立し、1993年9月の議会による大統領解任劇に発展した。これに対抗してエリツィンは最高会議と人民代議員大会を強制解体し、同年10月には反大統領派がたてこもる最高会議ビルを戦車で砲撃し、議会側を降伏させた。これがモスクワ騒乱事件。12月には大統領に強大な権限を与え、国家機構を再編する新しい**ロシア連邦憲法**を制定した。西側の主要国はエリツィンを支持したが、1994年にデノミを行って経済を混乱させ、また【1: 】が失敗に終わった結果、エリツィンの支持率は低下した。さらにエリツィン自身、持病の心臓病の手術による過労がたたりに、政権に不安定さが目立ち、「そろそろ終わりかな」という状況になった。ところが！

#### 5) 第二次エリツィン政権

1995年の下院選挙ではソ連崩壊後に再建された【2: 】が第一党となるなど、エリツィン反対派が議会の多数を占めた。続く1996年の大統領選挙ではそのロシア連邦共産党のジュガーノフ議長に肉薄され、大苦戦。アメリカから選挙キャンペーンのプロを呼び、ジュガーノフ当選による共産主義の復活を恐れた新興財閥に巨額の選挙資金を出させ、なり振りかまわぬ選挙戦を展開し結果的に再選を果たした。第二次エリツィン政権では新興財閥の影響力が増した。また、改選前から（1995年）株式担保型民営化が行われ、「【3: 】」と呼ばれる**新興財閥は石油産業ほか多くの国営企業を手に入れ、国有資産を私物化した**。こうした「オリガルヒ」はエリツィンの親族とともに「セミヤー」と呼ばれる側近集団を形成、「セミヤー」との癒着でエリツィン政権は腐敗した。1998年には事実上の債務超過に陥り、経済の混乱は目に見えて酷くなり、首相を次々に更迭してその場をしのいだ。政権は末期的様相を呈した。

#### 6) 政権移譲

エリツィンは、1999年12月31日正午にテレビ演説で辞任を表明。後継の大統領（代行）に、当時首相だった【4: 】を指名した。辞任演説では、国民の期待に応えられなかったことを詫言、新しい指導者が求められていると語った。エリツィンは、その後表舞台からは姿を消し、2007年4月23日、長年の心臓疾患による多臓器不全でモスクワの病院で死去。76歳（1931.2.1生）だった。なお、ゴルバチョフ（1931年生まれ）は引退したが健在で頻繁に来日。

### プーチンの時代

1952.10.7生 柔道五段 青年期はKGB情報部員 祖父はレーニンの料理人

- 1) 第1期目（2000年～2004年） 大統領代行から2000年の大統領選挙で正式に大統領になった。【4】は中央政府の権限を強化する政策を打ち出す。2000年5月、ロシア全土85の地域を7つに分けた連邦管区を設置し、「垂直統治機構」と呼ばれる【5: 】化システムを確立した。強硬さを批判されたが、国民の支持を受けた。1998年のロシア金融危機で打撃を受けた経済が回復し成長を続けた。エリツィン時代の遺物であるオリガルヒの納税回避により国家財政は危機に陥った。プーチン大統領はオリガルヒと対決、オリガルヒは所有するメディアでプーチンを攻撃したが、逆に脱税・横領などの捜査でオリガルヒを逮捕して制圧。指導に従うことを誓った企業と和解し、メディアを支配させた。プーチンは企業の政治介入を排除し、制圧したオリガルヒに納税させ国家財政と崩壊寸前だったロシア軍を再建した。国民は熱烈にこれを支持した。
- 2) 第2期目（2004年～2008年） 2004年の大統領選挙で70%以上の圧倒的な得票率で再選。再選後、同年9月に**ベスラン学校占拠事件**が発生したことから、地方の知事を直接選挙から大統領による任命制に改め、より一層の中央集権化を進め、大統領権限を強化した。ロシア経済は原油価格の高騰に伴い2期目も実質GDP成長率が年6～8%台の成長（2004年～2007年）を続けた。ただしその多くがエネルギー資源に依存していたため、その経済構造を是正し、より一層の経済発展を達成することを目的として、プーチンは2005年12月に製造業とハイテク産業の拠点とするため6箇所の経済特区を設けた。ロシア政府は2005年に国際通貨基金（IMF）からの債務、2006年にパルククラブからの債務を完済し、ロシア経済は安定して国際的な信用を取り戻した。2005年10月に「優先的国家プロジェクト」を大統領令によって立ち上げた。保健・教育・住宅建設・農業の4分野で改革を行って社会基盤を整備し、【6: 】の向上を目指す計画である。プーチン政権の2期目は、政治手法が強権的・独裁的だとして欧米諸国から強い非難を浴びることになる。また、プーチン政権を批判していた人物が次々と不審な死を遂げ、ロシア政府による暗殺説が浮上したことも、欧米諸国に悪いイメージを持たれる一因になった。
- 3) 首相時代（2008～2012） ロシアの大統領は連続3選が憲法により禁止されている。2007年12月10日には大統領後継者として第一副首相の【7: 】を指名し、2008年3月、大統領選挙でメドヴェージェフが70%以上の得票を集め大勝した。同年4月15日の第9回統一ロシア党大会でプーチンは同党の党首に就任することを受諾した。首相就任によりメドヴェージェフとの「双頭体制」となったが、**プーチンは大統領を退いた後も役職は首相だが事実上最高権力者として影響力を行使した**。
- 4) 再度大統領に（2012～） 2008年の憲法改正により、今任期から連邦大統領職の任期が6年となったため、任期満了は2018年となる。また、仮に次期大統領選挙に出馬・再選された場合には、2024年まで在任することになる。

【MEMO】

# イノベーションの進展

## 1) コンピュータは軍用だった

第二次世界大戦中に、大砲の弾道を計算する戦艦の射撃管制用に制作されたアナログコンピュータが、今日のコンピュータの先祖と皆されている。1946年に実用化された学術用デジタルコンピュータは数万もの【8: 】で構成され、それらが切れていないか（【8】は電球のように劣化すると切れた）点検するのに数時間を要したという。

## 2) トランジスタの実用化で、世界は新しい段階を迎えた。

①1950、60年代はトランジスタの時代。工業製品の小型化、軽量化に応用された。

【9: 】とは、真空管に替わって信号を増幅する素子。

日本製の「トランジスタラジオ」が世界中で販売された。

②1960年代初めアメリカで宇宙用・軍用に【10: 】が生産され1960年代後半には家電にも応用された。多数のトランジスタなどを含む回路が小さな基板の上に実装されたものを IC（集積回路）と呼ぶ。

IC を 1 個でも使っている家電製品には誇らしく IC と表示されていた。

③1960年代後半、集積度を飛躍的に向上させた【11: 】（LSI）が登場した。これで電卓が急速に小型化された。

④1970年代、半導体技術の飛躍的進歩あり。LSI の高密度化が進み、ついに一部高級家電がしゃべるようになった。

⑤1980年代後半、コンピュータの小型化が進み、まずオフィスや学校から【12: 】が普及し始めた。1980年代後半にはウィンドウズが登場する。

1990年代には一般家庭にもパソコンが普及し始め、同時に、通信環境が整備され【13: 】接続が容易になった。※1

インターネットも、アメリカ合衆国で軍事技術開発に携わる多数の学者・技術者がメールやデータを瞬時に交換する必要から生まれ、民間に広まった。初期のインターネット通信は、パソコン通信と呼ばれた。

⑥21世紀に入ると「【14: 】」が登場する。これはインターネットに無線で常時接続可能な携帯コンピュータに通話機能がついたものである。

## 3) 半導体産業とは何か

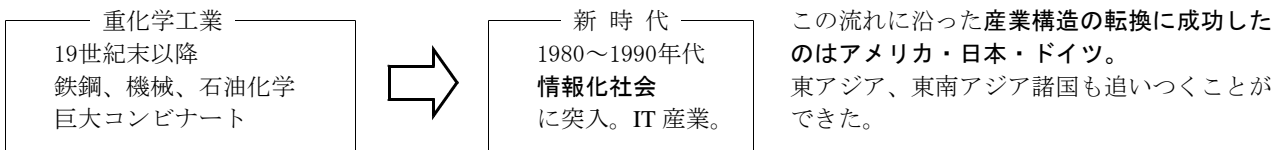
半導体とは本来は半導体素子のことであるが、現代用語としては、シリコン基板上に半導体素子等を非常に高密度で実装した高度な集積回路のユニット（多数のピンが出ていてソケットで取りつける）を指している場合が多い。かつて IC、LSI、超 LSI 等と呼ばれたが、今やそれらは常識と化した。CPU（演算を行うパソコンの心臓部）やデータを記憶するメモリーチップという形で販売され、半導体産業とはこのようなものを生産する業界のことである。

## 4) 情報技術（IT）革命は何を意味するか。

情報技術（IT）革命は、教科書によっては1990年代と書いてあるが、正確には1980年代から始まっていた。机上に置かれた1台のパソコンが他の全ての従業員のパソコンとつながり、優秀な業務用ソフトウェアがあれば、企業の情報の流れをすべてパソコン上ででき、情報の共有と処理の即時化ができる。それは、県境も国境も越え、全国・全世界の本店・支店・倉庫・生産拠点を結び、さらに国内外のクライアントのパソコンともつながっている。つまり、ネットワーク社会への移行が始まり、企業活動の【15: 】が加速された。紙の伝票で仕事をする企業は淘汰された。

パソコンは、オフィスの机の上に置けるサイズで、ネットワークに接続できることが必須条件である。ソ連は、ICBM や宇宙船を制御できる大型コンピュータではアメリカに負けてはいなかったし、兵器に搭載する小型コンピュータなら作れたが、膨大な軍事費のために開発に予算を回せず、時代の流れを読めない無能な高級官僚の指導の下、ついにその崩壊にいたるまで、使用に耐えるビジネス用のパソコンを大量生産できなかった。そのためにソ連をはじめとする社会主義諸国では1980年代に情報技術（IT）革命が起きなかった。これがソ連崩壊の原因の一つだという説もある。

## 5) 産業の新しい流れ



ソ連をはじめ社会主義国は1980年代にこの流れに乗ることができなかった。

IC : integrated circuit    LSI : large scale integration    IT : information technology    パソコン (PC) : personal computer

※1 日本における初期のインターネットは NTT の電話回線を使用してプロバイダにダイヤルアップしていた。従って、パソコンが通信中は電話が使用できなくなる。料金は通話時間による従量制のため電話料金が莫大になることがあった。1995年より NTT 東日本・西日本は、深夜早朝の時間帯（23時から翌日8時まで）に限り、通話時間に関わらず料金が月極の一定料金となるオプションサービスを始めた。名称は「テレホーダイ」。俗に「テレホ」とも略称され、高校生の夜更かしの原因の一つとなった。2001年頃から、インターネット専用回線のフレッツ ISDN や ADSL などの常時接続（完全定額）手段を利用可能な地域が拡大して行った。

## 2011 大学入試センター（抜粋）

下線部(7)＝メディア

正解 ①

問7 下線部(7)の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① モールスは、電信機を発明した。
- ② アークライトは、無線電信を発明した。
- ③ 19世紀後半に、アメリカ合衆国でラジオ放送が開始された。
- ④ 20世紀前半に、インターネットが普及した。